

兵庫県弁護士会主催  
「憲法についての懸賞作文」

テーマ 「憲法と平和 ～平和への誓い 9条～」

住所：神戸市垂水区

氏名：北野夏子

今から 60 年前、日本は戦前の反省の下で、日本国憲法を持つことになりました。この現行憲法は、「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」という三つの精神を柱としています。これらはいずれも、国民の生命・身体・自由・財産などを守る重要な役割を果たしているのです。

しかし、世界中で国や民族同士の紛争が絶えない昨今、日本においても「平和」への思いが希薄になってしまっているのではないかと危機感を覚えるのです。特に、日米関係や自衛隊をめぐる論争では、憲法第 2 章「戦争の放棄」を差し置いて、極度に国際協調を前面に押し出した憲法改正を訴える風潮が強くなってきているように感じます。

憲法改正を訴える人々は、日米関係を重視し、「日本の自衛隊に集団的自衛権を持たせることで対等な関係を築くことができる。今のままでは、日本はいつまでもアメリカの核の傘に守られることになる」と主張します。つまり、日米が政治的立場において対等な関係を構築するために集団的自衛権が必要だ、というわけです。

また、彼らは、「憲法の改正や自衛隊を軍隊にすることに反対するのは、平和ボケのせいだ」などとも主張します。

しかし、これらの主張は、本当に妥当なものでしょうか。

まず、自衛隊の集団的自衛権の問題についてですが、私は反対の立場を強く主張します。現在の自衛隊は軍隊ではなく、また、個別的自衛権のみを持つに留まっています。そのため、同盟国であるアメリカが他国からの攻撃を受けても、日本の自衛隊が参戦することはありません。しかし、集団的自衛権を有するとなると、日本の自衛隊も共に戦争に参加することになってしまいます。そのような状況下では、当然多くの負傷者や死者の続出も容易に想定されます。現に、イラク戦争においては、武力行使とは無縁の人道支援活動に携わる人々

も、紛争や衝突に巻き込まれ、命を落としているのです。また、アフガニスタンなどにおいても、無辜の市民が多数犠牲となり、家族や平穏な暮らしを奪われている現実があるのです。

確かに、同盟国と政治的に対等の関係に立つことは、国益という側面から考えても重要です。しかし、国家という全体的な利益にとらわれて国民一人ひとりの生命が脅かされるような事態は許容できません。まして、自衛隊を自衛軍とし、他国の戦争に参加することを認める憲法に変えることは、回避しなければなりません。全体の利益保護のために、一部の人々の生命や身体が犠牲になることは、決して正当化できないのです。

次に、国際協調という視点から自衛隊を論ずる場合についてです。自衛隊を軍隊とすることに賛成の人々は、「他国が軍隊を派遣しているのに日本だけ足並みがそろっていない」という旨を主張します。しかし、国際協調とは、他国の行為の善悪に関わらず日本が参加しなければならないという意味ではありません。人道的な活動には積極的に参加すべきであるし、逆に戦争に加担するような場合には、日本が平和主義を前端的に掲げ、紛争の停止に努めなければなりません。日本が世界に誇る憲法 9 条を掲げ、世界において戦争反対・平和実現のリーダーシップを発揮することこそが最大の国際貢献である、と確信しています。

最後に、憲法改正について反対の姿勢をとることが妥当ではないのかという点ですが、私は今こそ現行憲法の堅持が重要であると考えています。確かに、現行憲法は 60 年前に制定されたものなので、現在の社会情勢にそぐわない部分もあるでしょう。また、制定当時には想定されていなかったような事態が生じているのも事実です。しかし、時代が移り変わっても守っていかなければならないものがあります。それが憲法 9 条です。護憲の立場から 9 条の堅持を主張

することは、決して「平和ボケ」などではありません。むしろ、戦争を遠い「過去」のこととして捉え、日本が軍隊を持つことが現状に即した新しい国の形であると考えたら、平和に対する意識が希薄になっている証拠ではないでしょうか。

日本は62年前の悲劇を忘れることなく、戦争の愚かさや悲惨さ、また生命の尊さを語り伝えていかなければなりません。「二度と同じような悲劇をくりかえしてはならない。」その精神と誓いが憲法9条であり、世界に向けた願いでもあるのです。

以上のような観点から、私は現行憲法の重要性、ひいては憲法9条の果たすべき役割がいかに大きいかという点を強調したいと思います。

世界各地で紛争が起こり、国内においても命が無残に奪われている現状の中で、憲法が訴える平和に思いを致すことの意味は大きいはずです。

そして、何より大切なことは、憲法を支えているのは私たち国民一人ひとりであるということです。一人ひとりが命の尊さについて考えることが、平和の実現へとつながるに違いありません。